

様々な事案から災害活動を振り返る



東方面隊

今回は夏場の昼間帯に特定密集地域で発生した炎上火災現場においての消防隊の活動と、それを支援した地域の住民の方々との連携について紹介する。

今回のテーマ

地域住民との繋がり 酷暑での火災現場を通して

災害概況

- 覚知 8月中旬12時頃
- 天候 曇り 気温32℃ 湿度69%
- 構造様式 木造瓦葺モルタル塗平家建4棟
- 焼損程度 4棟合計 128㎡焼損
23㎡表面焼損
- 負傷者 男性1名火元居住者
- 主な時系列
 - 12時31分 出火(推定)
 - 12時36分 覚知
 - 12時37分 特別第1出場指令
 - 12時40分 先着隊直近部署
 - 12時42分 先着隊放水開始
 - 13時03分 特別第2出場指令
 - 13時27分 鎮圧



残暑厳しい8月の昼間、午前中の救助訓練を終え、昼食を取っている最中に火災指令が鳴り響いた。

「火災指令J管内、特定密集地域水利指定計画適応火災、住宅出火」J消火隊が乗車すると、すぐに「続報多数あり、炎上火災の様様」と緊迫した無線情報が流れ、「よし！気を引き締めて行こう！」「水分補給は大丈夫か？」と、小隊長は冷静に隊員の体調への配慮を怠らなかった。

現場付近に到着すると、濃煙が道路の辺りまで立ち込めており、2m先も見えにくい状況であった。小隊長は直ちに隊員にホース延長を指示、燃焼中の建物を見上げると、炎は既に屋根を突き抜け隣の平家へ延焼を始めている。「誰か逃げ遅れた方はいませんか？」消防隊員が必死に呼びかけていると、「ここに怪我人がいます」との声が

聞こえてきた。慌ててその方向を見ると、道の傍らで高齢男性が手足を震わせながら周りの人達に付き添われていた。「この人の家が火元です、一人暮らして他に逃げ遅れはいいから」と、その近隣女性は話した。すぐに男性を救急隊に引き継ぐと、別の住人の方からは「近所

